

回路とシステム  
第一回 回路方程式  
節点方程式と閉路方程式

舟木 剛

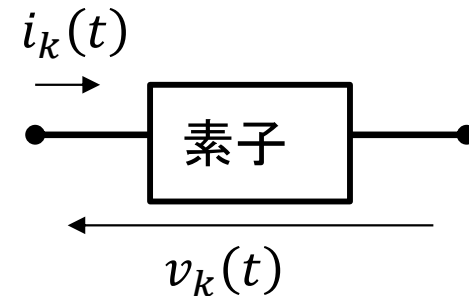
2022年10月3日2限

# 講義計画

- 回路方程式 1回
  - 節点方程式と閉路方程式
- ラプラス変換による回路解析 1回
- 線形回路の応答 2回
  - 零入力応答(重ね合わせの理、零入力応答の時間応答、漸近安定性)
  - 零状態応答(伝達関数、重ね合わせの理、インパルス応答と合成積、安定伝達関数、周波数応答)
- 1ポート回路 3回
  - テブナン・ノートンの定理
  - 安定性と正実性(開放安定性、短絡安定性、正実関数)
- 2ポート回路 4回
  - 2ポート回路の行列表現
  - 相反2ポート回路
  - 相互接続
  - 分布定数回路の等価回路(T形等価回路、 $\pi$ 形等価回路)
- 状態方程式による回路解析 2回
  - 状態方程式の導出(状態変数、状態方程式、出力方程式)
  - 状態方程式の解(零入力応答、零状態応答)
- 三相交流 1回
  - 平衡三相回路

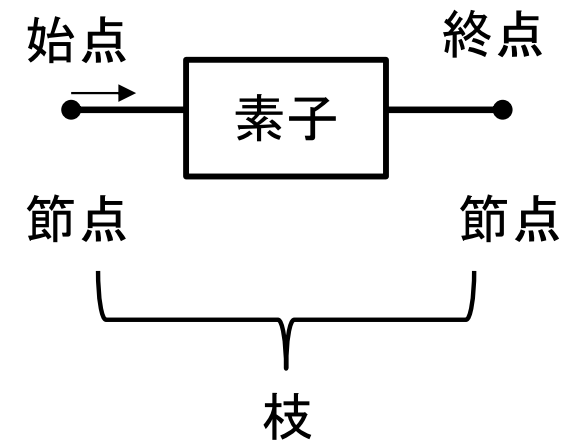
# 回路方程式

- 回路方程式とは
  - 回路を構成する素子の電気的特性と素子の接続関係を表した式
    - $m$ 個の素子で構成された回路
      - $2m$ 個の状態変数
        - 電圧 $v_k(t)$  ( $k = 1, 2, \dots, m$ )
        - 電流 $i_k(t)$  ( $k = 1, 2, \dots, m$ )
      - 直流・交流回路
        - $v$ と $i$ の関係は代数方程式
      - 過渡回路
        - L,C: $v$ と $i$ の関係は微分方程式
        - 抵抗: $v$ と $i$ の関係は代数方程式



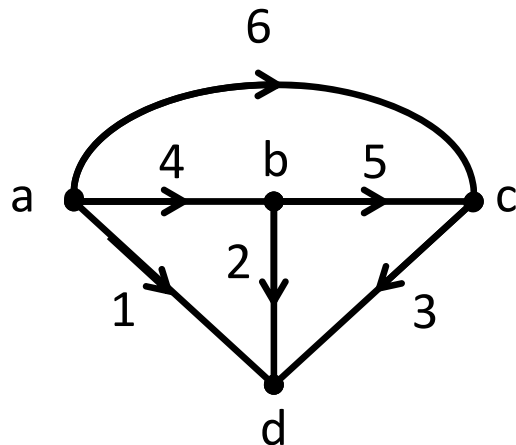
# 回路方程式

- 回路における素子の接続構造の表現
  - 節点:回路素子の接続点
    - 始点:素子に入る, 終点:素子から出る
  - 枝:回路素子等の節点間をつなぐもの
  - 閉路:枝をつないで電流が流れる経路がある状態
    - 閉路が形成されないと回路として機能しない
- KCL(キルヒホッフの電流則)
  - 節点に流れ込む電流の和は0
- KVL(キルヒホッフの電圧則)
  - 閉路に沿った電圧の和は0



# 回路方程式

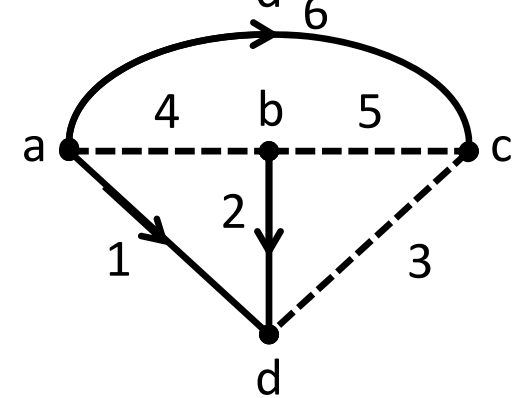
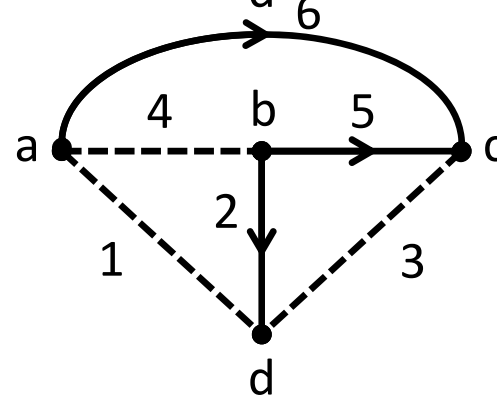
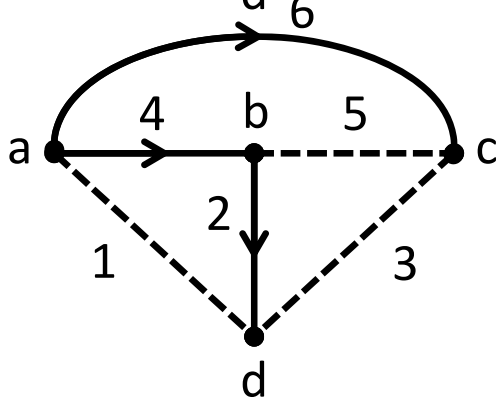
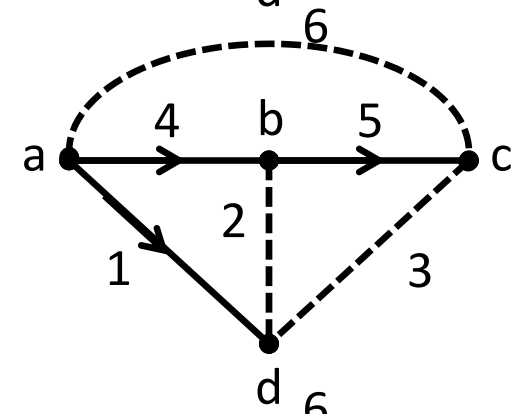
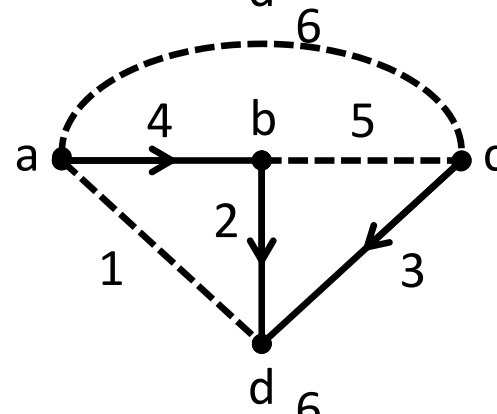
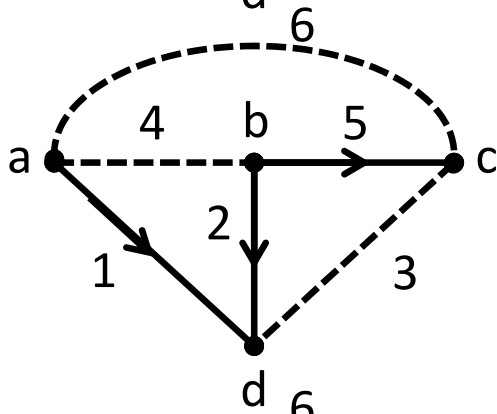
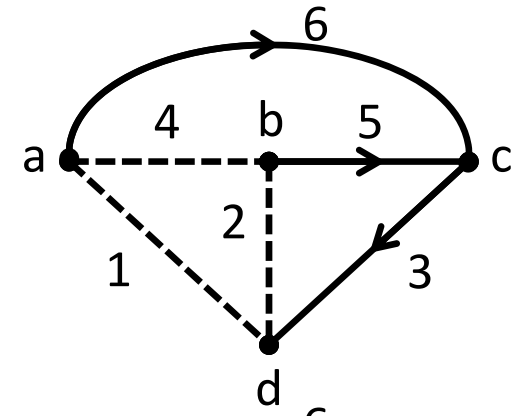
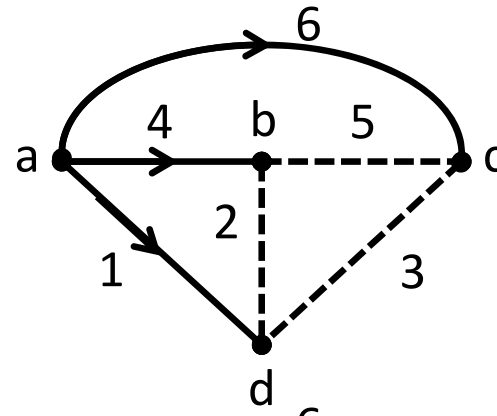
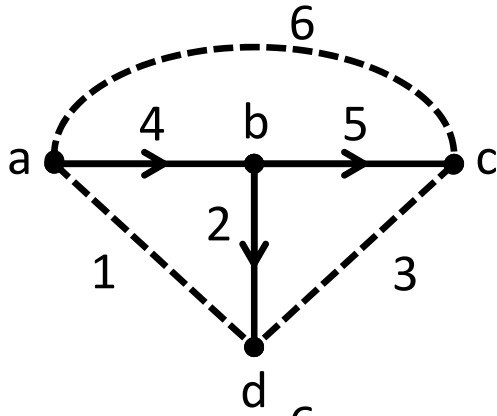
- 木:閉路を形成しない最大の枝の集合
  - 全ての節点を含む
  - 組み合わせは複数ある
- 補木:木に含まれない枝の集合
  - 木に補木を付加すると閉路が形成される



回路の接続状態を  
節点と枝で表した有向グラフの図

# 回路方程式

- 木の例



# 回路方程式

- $m$ 個の二端子素子で $n$ 個の節点をもつ回路
  - 素子の特性方程式: $m$ 個
  - KCL方程式: $n - 1$ 個
  - KVL方程式: $m - n + 1$ 個

} ←  $i$ と $v$ の関係  
 $2m$ 個  
← 補木の数
- 節点変換:回路方程式を節点方程式にまとめる
  - $n - 1$ 個の節点電位
- 閉路変換:回路方程式を閉路方程式にまとめる
  - $m - n + 1$ 個の閉路電流

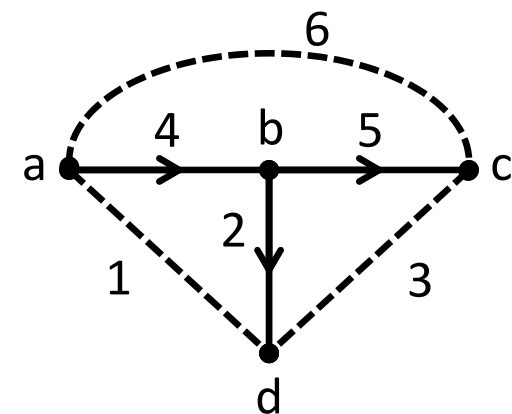
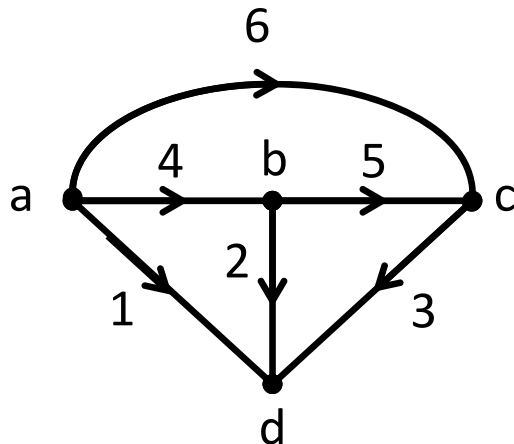
# 回路方程式

- KCL( $n-1=4-1=3$ )

- $a: i_1 + i_4 + i_6 = 0$
- $b: i_2 - i_4 + i_5 = 0$
- $c: i_3 - i_5 - i_6 = 0$
- $d: -i_1 - i_2 - i_3 = 0$
- 一つ冗長

- KVL( $m-n+1=6-4+1=3$ )

- $1: v_1 - v_2 - v_4 = 0$
- $3: v_3 - v_2 + v_5 = 0$
- $6: v_6 - v_5 - v_4 = 0$





# 節点方程式

- $n$ 個の節点からなる回路
  - $n - 1$ 個の節点電位を未知変数とする  $n - 1$ 個の連立方程式
  - 回路を構成する  $n$ 個の節点の中から, 基準節点  $0$  を決める
    - 基準節点は実回路におけるグラウンドに相当
    - $u_p(t)$ : 節点  $p$  ( $p = 1, 2, \dots, n - 1$ ) の時刻  $t$  における, 基準節点  $0$  に対する電位
    - $v_k(t)$ : 枝  $k$  の素子電圧
      - 枝  $k = (p, q)$ 
        - $p$ : 始点,  $q$ : 終点
      - $v_k(t) = u_p(t) - u_q(t)$

# 接続行列

- 接続行列

- 節点と枝からなる回路を表す
- 節点数 $n$ , 枝数 $m$ の回路の有向グラフ
  - グラフ: 節点と枝により構成される
  - 有向グラフ: 節点と向きを持つ枝により構成されたグラフ
    - 電圧の極性, 電流の向き
- $a_{ij}$ を成分とする $n \times m$ 行列 $A$

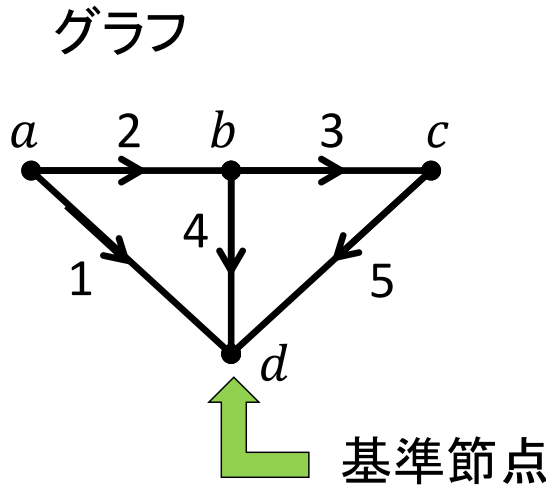
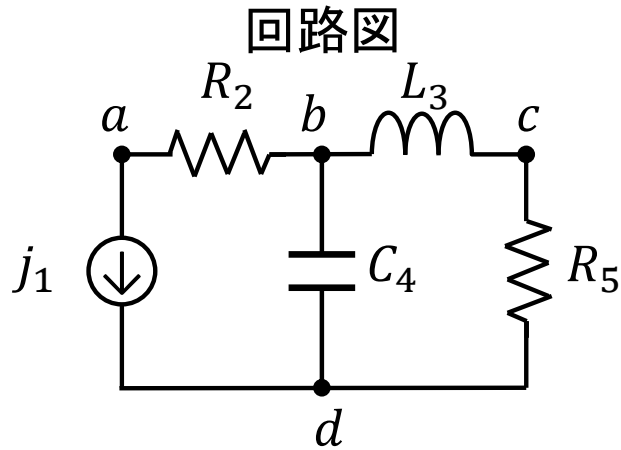
- $a_{ij} = \begin{cases} 1 & \text{節点}i\text{から枝}j\text{に出る} \\ -1 & \text{節点}i\text{に枝}j\text{から入る} \\ 0 & \text{その他} \end{cases}$

- 既約接続行列: 基準節点に関する行を削除した行列

# 節点変換

- 節点電位ベクトル $\mathbf{u}(t)$ から素子電圧ベクトル $\mathbf{v}(t)$ への変数変換
  - 素子電圧ベクトル: $\mathbf{v}(t) = [v_1(t) \ v_2(t) \ \cdots \ v_m(t)]^T$ 
    - $v_k(t) (k = 1, 2, \dots, m)$ : 二端子素子電圧
  - 節点電位ベクトル: $\mathbf{u}(t) = [u_1(t) \ u_2(t) \ \cdots \ u_{n-1}(t)]^T$ 
    - $u_p(t) (p = 1, 2, \dots, n - 1)$ : 節点電位
  - $A_r$ : 節点 $p$ が $p$ 行, 素子 $k$ が $k$ 列に対応する既約接続行列
    - $\mathbf{v}(t) = A_r^T \mathbf{u}(t)$ 
      - $m$ 個の素子電圧が $n - 1$ 個の節点電位で表される

# 節点変換の例



既約接続行列

$$A_r = \begin{matrix} & \begin{matrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \end{matrix} \\ \begin{matrix} a \\ b \\ c \end{matrix} & \begin{bmatrix} 1 & 1 & & & \\ & -1 & 1 & 1 & \\ & & & -1 & 1 \end{bmatrix} \end{matrix}$$

節点変換

$$\begin{bmatrix} v_1 \\ v_2 \\ v_3 \\ v_4 \\ v_5 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 1 & & & \\ & -1 & 1 & 1 & \\ & & & -1 & 1 \\ & & & & 1 \end{bmatrix}^T \begin{bmatrix} u_a \\ u_b \\ u_c \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} u_a \\ u_a - u_b \\ u_b - u_c \\ u_b \\ u_c \end{bmatrix}$$

# 電圧制御形素子の特性方程式

- 素子電流 $i(t)$ が素子電圧 $v(t)$ の関数で表される
  - 抵抗: $i(t) = Gv(t)$
  - コンデンサ: $i(t) = C \frac{d}{dt} v(t) = C\Delta v(t)$ 
    - $\Delta$ :微分記号
  - インダクタ: $i(t) = \frac{1}{L} \int_{t_0}^t v(\tau) d\tau + i(t_0) = \frac{1}{L} \Gamma v(t) + i(t_0)$ 
    - $\Gamma$ :積分記号,  $t_0$ :時刻初期値
  - 電流源: $i(t) = 0v(t) + j(t) = j(t)$ 
    - 電流源は係数が0の電圧制御型素子と見なす

# 節点方程式の導出

- KCL方程式:  $A_r \mathbf{i}(t) = 0$
- 節点変換式:  $\mathbf{v}(t) = A_r^T \mathbf{u}(t)$
- 特性方程式:  $\mathbf{i}(t) = \Psi \mathbf{v}(t) + \mathbf{j}(t)$ 
  - $\mathbf{i}(t) = \Psi \mathbf{v}(t) + \mathbf{j}(t) = \Psi A_r^T \mathbf{u}(t) + \mathbf{j}(t)$
- 節点方程式の導出:
  - $A_r \mathbf{i}(t) = A_r \left( \Psi A_r^T \mathbf{u}(t) + \mathbf{j}(t) \right) = 0$
  - $A_r \Psi A_r^T \mathbf{u}(t) + A_r \mathbf{j}(t) = 0$ 
    - $n - 1$ 個の節点電位を未知数とする連立方程式
    - KCLになっている

# 節点方程式のまとめ

- 素子数 $m$ 個, 節点数 $n$ 個の回路
  - $v(t)$ :素子電圧ベクトル,  $i(t)$ :素子電流ベクトル
- 節点方程式
  - $A_r \Psi A_r^T \mathbf{u}(t) + A_r \mathbf{j}(t) = 0$ 
    - KCL方程式 $n - 1$ 個より導出
    - $\mathbf{u}(t)$ :節点電位ベクトル,  $\mathbf{j}(t)$ :電流源ベクトル
    - $\Psi$ :電圧制御型の特性格行列(対角行列)
    - $A_r$ :既約接続行列